

『社会学研究』第75号(2004年7月22日)

特集「ウェーバー理論の現代的可能性」

- ・「現代社会の連続性と非連続性—今なぜウェーバーなのか」(正村俊之)
- ・「ウェーバーにおける歴史と社会科学」(牧野雅彦)
- ・「ヴェーバー宗教社会学における固有法則性の諸問題—「神々の闘争」再考」(荒川敏彦)
- ・「ヴェーバーにおける学問研究の社会学—「授与-諒解」論の視点から」(相澤出)
- ・「「理解」の方法と宗教社会学—M・ヴェーバー『経済と社会』草稿の研究」(松井克浩)
- ・「M・ヴェーバーにおける学問と政治—「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の『精神』」の執筆意図の解明に向けて」(大関雅弘)
- ・「ウェーバー研究と農村調査の間—ウェーバー研究の私的回顧」(菅野正)

論説

- ・「社会階層と学歴意識—学歴意識の潜在構造に関する経験的研究」(三輪哲)
- ・「都市祭礼の存続と担い手の解釈世界—大崎八幡宮代例祭を事例として」(高橋雅也・菱山宏輔)

書評

- ・高城和義著『パーソンズとウェーバー』(評者 徳安彰)
- ・小松文晃著『リスク論のルーマン』(評者 福井康太)